

町史だより



『西原町史』発刊に向けて⑧

西原町立図書館町史編集係では、現在「資料にみる西原（仮題）ビジュアル版」を編集すると同時に、町内の歴史資料（古写真・地図・文書など）の収集も行っています。そこで今回は、皆さんから提供していただいた西原町に関する写真を中心に紹介したいと思います。

戦前における西原村翁長の健脚たち



1934年(昭和9)10月 西原村合同運動会翁長撰出選手優勝記念

懐かしの西原国民学校



1943年(昭和18)3月 西原国民学校での集合写真



1943年(昭和18)8月 西原村運動会字翁長優勝記念(与那原親川にて)

戦前、西原村では村主催の運動会が盛んに行われていたようです。字翁長自治会には、上・右2枚の写真が残されていました。

情報の発信地・西原郵便局

この写真は西原国民学校(場所は現在の西原中学校)で撮影されたもので、中等学校に合格した生徒や高等科の生徒たちが写っています。また、当時学校の先生であった玉那覇馨氏(第十四代西原村長)の姿もみられます。(吉野史子氏所蔵写真)



第4代西原郵便局長 翁長正吉氏

局長は与儀氏(津花波出身)が就任し、西原郵便局の初代局長は与儀氏(津花波出身)が就任し、



1938年(昭和13)の西原郵便局

昭和十二年には、郵便局を小波津から小那覇(写真中央)に移転し、業務も増えていきました。



昭和初期頃の西原郵便局

明治三十六年、那覇郵便局が西原間切小波津村に郵便受取所を設置したことが西原における最初の郵便局開局ではないかといわれています(小波津にあった郵便局は写真右)。



1946年(昭和21)宮崎県川南村での疎開

昭和十九年、戦火を逃れるため、西原の児童たち一六二名は宮崎県に疎開しました。異郷の生活は、食糧難と寒さのため

疎開先での生活

二代目には城間氏(翁長出身)、三代目は比嘉氏(那覇市首里平良出身)、四代目は翁長正吉氏(幸地出身)(写真上段左)が歴任しました。(吉野史子氏所蔵写真)

とても厳しい生活だったといえます。終戦後、川南村の軍馬補充部跡地で自給自足の生活に入り、昭和二十一年十一月に沖繩に帰還しました。写真には翁長と津花波出身の児童たち、引率した新川吉次郎先生が写っています。(写義清次氏所蔵写真)

皆さんのご自宅にはこのような古い写真がねわっていませんか?この機会に整理してみてください。西原町の歴史を知る貴重な資料があるかもしれません。その時は西原町立図書館町史編集係にご連絡下さい。